

『新宿八犬伝』新作公演企画 公開対談シリーズ

# 80年代から現在

最終回

## 私たちはその時、どう生きていたのか？

川村毅が、毎回、辻仁成や内田春菊など同世代の文化人をゲストに迎え、肩肘張らない軽いトークで80年代の文化やアート、演劇シーンなどを振り返りつつ、今後の新たな展開について語る対談シリーズ第4弾にして最終回！

作詞家・本学副学長

# 秋元康



さて80年代トーク、トリを飾るのはいいよ、全世界へ打って出ようとするブームの仕掛け人で作詞家の秋元康氏の登場である。この同世代人にアナーキスト型エンターテイナー川村がどう斬り込むのか！？

「何を話すの？」わかんない。  
「ハナシかみあうの？」ワカンナーイ。  
わかんないだらけの恐怖のトークが今始まる！！  
こんな組み合わせのトーク、今世紀最初にして最後、ここでしか見られない代物ですぞ。

川村毅



# 川村毅

劇作家・演出家・本学舞台芸術学科長

## 秋元 康 Yasushi Akimoto

作詞家。高校時代から放送作家として頭角を現し、『ザ・ベストテン』など数々の番組構成を手がける。83年以降、作詞家として、美空ひばり『川の流れるように』をはじめ、中島美嘉『WILL』、EXILE『EXIT』ほか、数々のヒット曲を生む。08年11月、ジェロ『海軍』で第41回日本作詩大賞受賞。09年12月、第51回日本レコード大賞・特別賞をAKB48とともに受賞。91年、松坂慶子・緒形拳主演『グッバイ・ママ』で映画監督デビュー。企画・原作の映画に『着信アリ』シリーズなど。05年4月、京都造形芸術大学教授就任。07年4月、同大学副学長就任。TV番組『とんねるずのみなさんのおかげでした』などの企画構成、新聞・雑誌の連載など、多岐にわたり活躍中。アイドルグループ“AKB48”“SKE48”“SDN48”の総合プロデューサーも務める。著書に『一生を託せる「価値ある男」の見極め方』（講談社+α文庫）、『「選ばれる女性」には理由がある』（青春出版社）、『おじさん通信簿』（角川書店）、小説『象の背中』（扶桑社）、『企画脳』（PHP文庫）ほか多数。本年3月、渡辺晋賞を受賞。本年6月、日本放送作家協会の理事長に就任。

## 川村 毅 Takeshi Kawamura

劇作家、演出家。ティーファクトリー主宰。1980年明治大学政経学部在学中に第三エロチカを旗揚げ。2002年自作プロデュースカンパニー、ティーファクトリーを設立、以降発表の拠点としている。「新宿八犬伝 第一巻-犬の誕生-」にて1985年度第30回岸田國士戯曲賞受賞。1996年ACC日米芸術交流プログラムの гранツを受けNYに滞在。1998年ニューヨーク大学演劇学科に客員演出家として招かれる。近年の主な作品に、＜神なき国の夜＞三部作、作・演出（2005-2008年ティーファクトリー）、「オトコとおとこ」（2006年文学座アトリエ公演・書き下ろし）、「アルゴス坂の白い家」（2007年新国立劇場公演・書き下ろし）、「ハムレットクローン」作・演出（2003年ドイツ、2004年ブラジルツアー）、E.イェリネク作「ウルリーケメアリー・スチュアート」（2008年TPT・台本、演出）等。2003年世田谷パブリックシアターと京都造形芸術大学舞台芸術研究センター共催公演として初演の作・演出作品「AO! KOMACHI」は、2007年国内ツアー・NY他北米ツアーにて再演。英・仏・独・伊語に翻訳され、出版や現地でのリーディング公演などが行われている。京都造形芸術大学舞台芸術学科教授。日本劇作家協会、日本演出者協会会員。HP=<http://www.tfactory.jp/>

\*出演者は変更になる可能性があります。予めご了承ください。

# 8月21日(土) 13:15

会場：京都芸術劇場 春秋座ホワイエ (京都造形芸術大学内)  
京都市左京区北白川瓜生山2-116 / 市バス「上終町・京都造形大前」駅下車

参加無料 (予約優先)

予約申し込み・問合せ・主催：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター tel 075-791-9437